

ごうどひとめぐり

美濃神戸 瀬古の文芸史 完成 ～狂俳から読み解く先人たちの思い～

瀬古歴史研究会

瀬古区の有志の皆さんによって構成される「瀬古歴史研究会」が、戦前から平成期にわたり同区で行われてきた狂俳の創作活動の歩みを記した「美濃神戸 瀬古の文芸史」を完成させました。

狂俳とは、与えられたお題に対して、五七または七五の12音で表現する岐阜県発祥の文芸で、瀬古区には1940年ごろ伝わり、戦後期に行われた25歳前後の若者たちが文化活動に親しむ、青年会活動の教養科目として普及しました。

文芸史全386ページの中には、戦前戦後の若者たちが詠んだ句や、平成期の狂俳愛好家らが詠んだ句など、合わせて3500句が収録されています。また、句が詠まれた時代背景を深く知ってもらおうと、区関係者5名の戦争体験記も掲載されています。

本を作るきっかけとなったのは、4年ほど前、会の代表である傍島俊さんが瀬古公民館で見つけた戦前の狂俳の句が書かれた紙や短冊。今も瀬古区で狂俳が親しまれていることから「先人たちの思いや歴史を読み解く重要な資料になる」と考え、同じ瀬古歴史研究会の会員らとともに、更なる資料の収集、調査活動を開始することを決意しました。



▲代表の傍島俊さん(前列中央)ら瀬古歴史研究会の皆さんと吉田迪子さん(発行者・前列右端)、宇野雅美さん(区長・前列左端)

それからというもの区内の多くのお宅を訪ねて資料や証言を集め、また、専門家の助けを得ながら古い言葉や表現の解説をされました。協力いただいたご家族の記念にも残るように、句が作られた当時の写真を多く掲載したのも工夫の一つとのことでした。

文芸史は、寄付により180冊を製作。瀬古区の全家庭に配布するとともに、神戸町立図書館にも寄贈くださいました。

傍島俊さんは「家族愛や郷土愛、平和を望む気持ちなど、残された狂俳の句から先人たちの様々な思いが伝わってくる。ぜひ多くの方に手に取っていただき、瀬古区で受け継がれてきた文芸の素晴らしさを感じていただければと思います」と話されました。

「美濃神戸 瀬古の文芸史」は町立図書館で貸出・閲覧できます。



▲収集した資料を広げ新聞記者に説明する傍島俊さん



▲「美濃神戸 瀬古の文芸史」

戸籍のまど

8月1日～8月31日までの受付分
希望者のみ掲載しています(届出順・敬称略)

人の動き

令和7年9月1日現在 ※()内は前月との比較

人口 18,062人(-26)

世帯数 7,403世帯(-7)

男 8,842人(-13)

女 9,220人(-13)



お誕生 おめでとうございます

区名	お子さんのお名前	親さんのお名前
和泉	安藤 遥奈 (はるな)	慶一・須弥子
栄町	小寺 伽並 (かなめ)	雄悠・起那
昭和町	平井 葵人 (あおと)	貴之・恭子
川西	高橋 夏紬 (なつ)	拓巳・菜々子



心からお悔やみ 申し上げます

柳瀬	若松 良三 (87歳)
丈六道	釣餌 勝 (87歳)
南方	渡部 よ未子 (104歳)
栄町	古澤 秀雄 (74歳)
加納	堂本 ミツエ (82歳)
栄町	小寺 松太郎 (80歳)
西保	清水 妙子 (92歳)



ご結婚 おめでとうございます

あさひ町	華井 宏	♥	法月 咲紀
横井	古田 光司	♥	小島 育実 (三津屋)
落合	譲西 誓	♥	渡邊 仁美

